

報道関係者各位

令和7年9月4日

弥富市立桜小学校

一般社団法人 中部地域づくり協会

東海豪雨から25年

A I の画像認識機能を活用して防災学習 ～防災クイズシステムを制作～

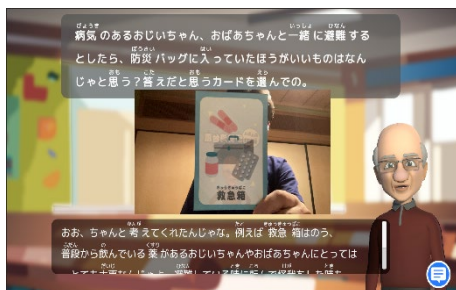
今年は200万都市名古屋を襲った東海豪雨から25年です。愛知県や岐阜県では大規模な浸水被害が発生しました。これを契機に水防法が改正され、ハザードマップに記載されている浸水深を公表することになりました。また、ライフラインの被害も甚大で、水や食料も不足するなどの深刻な影響もありました。

令和4年～令和7年に子供たちから取ったアンケート(当協会調べ)によると、ハザードマップで自宅の浸水深を確認したことがある子供たちは10%以下であり、十分な活用に至っていません。また、非常食や備蓄品の準備をしていると答えた子供たちは50%となっています。

そこで、東海豪雨から25年を契機に、子供たちがハザードマップへの関心と記載内容の理解向上や非常食・備蓄品の準備など事前の対策を考えるきっかけづくりを目的として、AIの画像認識機能を活用した防災クイズシステムを制作しました。システムは、その他にも、避難のタイミングなどについてもクイズで学ぶことができます。

この度、東海豪雨発生日である9月12日に、弥富市立桜小学校で、本システムを活用した初めての防災講座を行います。

なお、システムの概要は別紙の通りです。



(防災クイズのイメージ)



(システムを活用した防災講座の様子)

【防災講座スケジュール】

日 時: 令和7年9月12日(金) 6年生 76名(3クラス)

1限(8:55-9:40) 松組 2限(9:50-10:35) 竹組 3限(10:55-11:40) 梅組

会 場: 弥富市立桜小学校 図工室

講 師: (一社)中部地域づくり協会 地域づくり技術研究所長 犬飼一博

なお、取材をご希望の方は、別紙「取材登録書」による事前申込をお願いいたします。

【問合せ先】

○防災講座全般

(一社)中部地域づくり協会 地域づくり技術研究所長 犬飼 一博 TEL 052-871-9380

〒467-0856 名古屋市瑞穂区新開町21-10

○学校の取組等

弥富市立桜小学校 校長 辻 麻希 TEL 0567-67-0824

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町南本田425

*中部地域づくり協会は、国土の利用、整備、保全、災害防止などの事業を行い、国土の健全な発展に寄与することを目的とする一般社団法人です。

取 材 登 録 書

取材をご希望される報道機関様におかれましては、事前登録のためこちらの取材登録書をご記入のうえ、期限までにメールにて送信をお願いいたします。

回答期限 令和7年9月11日(木)12時00分まで

1. 報道機関名 _____

2. 取材者

(1) お名前(複数名の場合、代表者名)

(2) ご連絡先 TEL: _____

e-mail: _____

(3) 取材人数 _____人

回答先 : (一社) 中部地域づくり協会 地域づくり技術研究所

メールアドレス kenkyujyo@ckk.or.jp

A I の画像認識機能を活用した防災クイズシステムを制作

東海豪雨から25年

今年は200万都市名古屋を襲った東海豪雨から25年です。愛知県や岐阜県では大規模な浸水被害が発生しました。これを契機に水防法が改正され、ハザードマップに記載されている浸水深を公表することになりました。また、ライフラインの被害も甚大で、水や食料も不足するなどの深刻な影響もありました。令和4年～令和7年に子供たちから取ったアンケート（当協会調べ）によると、ハザードマップで自宅の浸水深を確認したことがある子供たちは10%以下であり、十分な活用に至っていません。また、非常食や備蓄品の準備をしていると答えたこどもたちは50%以下となっています。

そこで、東海豪雨から25年を契機に、子供たちがハザードマップへの関心と記載内容の理解向上や非常食・備蓄品の準備など事前の対策を考えるきっかけづくりを目的として、AIの画像認識機能を活用した防災クイズシステムを制作しました。

【システムの概要】

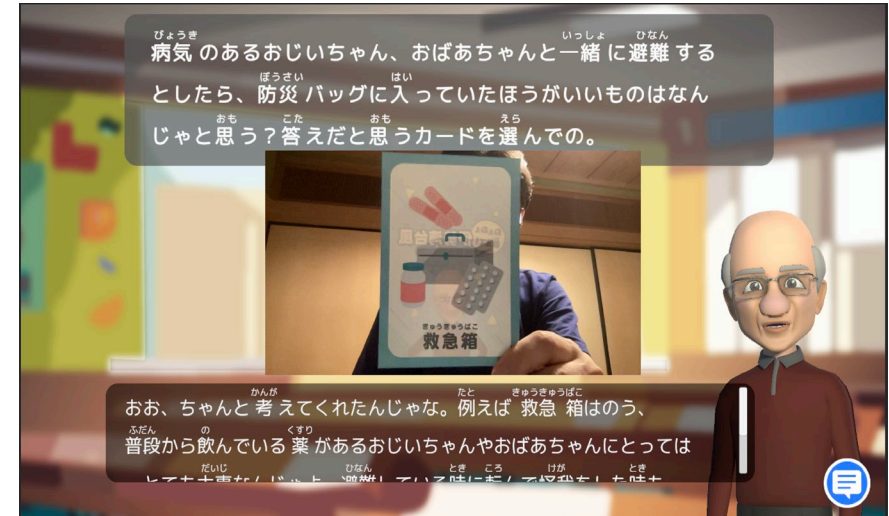
AI技術を活用し、ユーザーが質問に対して、答えのカードをWebカメラに見せることで、カードの識別とその解説をAIが行います。従来の文字や発話によるAIとの対話だけではなく、カード選択でAIとのコミュニケーションを図ることにより、以下の利点を創出します。

- ・ **多様性に配慮した学習が可能**：読み書きや日本語発音に自信がなくても、カードをかざすだけでやり取りが可能であり、低学年や特別支援学校での教育、外国人など、多様性に配慮した学習が可能となります。
- ・ **コミュニケーションの活発化**：参加者がカードを見せ合うことで意見交換が活発になり、より自分事として捉えられ、学習効果が増大します。
- ・ **学習の理解を促進**：AIアバターがカードの内容を踏まえて音声で解説をフィードバックすることで、視覚と聴覚の両面からより理解が深まります。

“話しかける”だけでなく、“見せる”でも対話ができる。

デジタルの利便性と紙教材の間にA Iで橋をかけることで、誰一人取り残さない防災学習を目指しました。

この技術を活用し、ハザードマップの活用や避難行動への理解促進、事前の備え、障がい者や外国人への啓発など、多様性にも配慮した防災啓発を推進します。



A I の画像認識機能を活用した防災クイズシステムを制作

クイズの流れ

① A I アバターが音声で質問を投げかけ



② 各自、正解と思うカードをWEBカメラに提示



③ A I アバターがカードを識別して音声で解説

カードの例



質問の概要

避難用品に関する質問 (最大4問)

質問の事例

- ・ 病気のおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に避難する
としたら、防災バッグに入っていた方がいいものは
なんじゃと思う？
答えだと思うカードを選らんでの。

ハザードマップに関する質問 (最大3問)

質問の事例

- ・ 手元にあるハザードマップをみて、小学校の周りの
浸水深は何メートルかの？ 答えだと思うカードを
選んでの。

避難行動に関する質問 (1問)

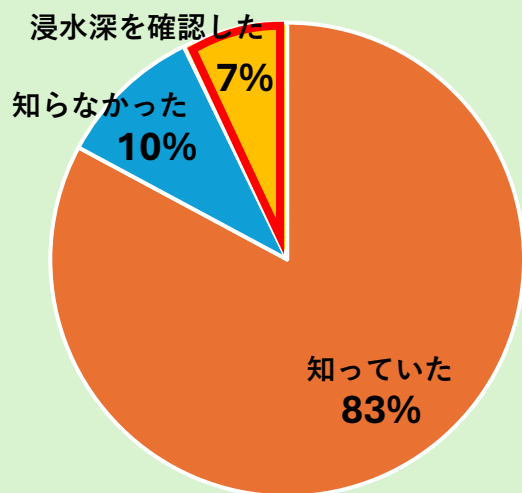
質問の事例

- ・ 避難行動のカードを、行動する順番に並べてみせて
おくれ。

アンケート結果

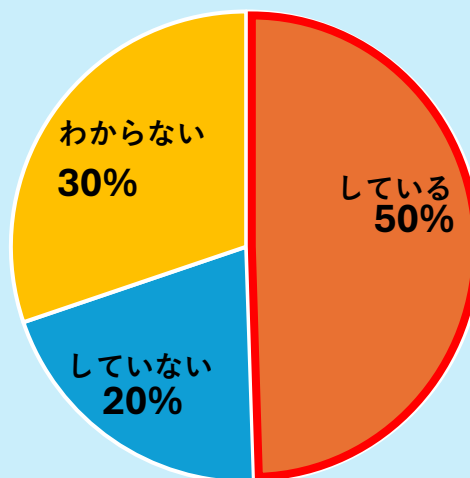
(一社) 中部地域づくり協会

ハザードマップを知っていましたか？
(有効回答数=8399)



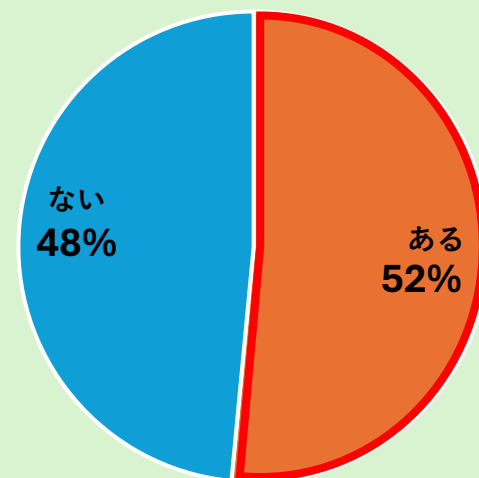
知っている人は90%
しかし、浸水深まで
確認したのは**7%**

非常食・備蓄品の準備をしていますか？
(有効回答数=8814)



準備をしている人が
50%

家族と避難について話し合ったことがありますか？
(有効回答数=8729)



家族で話し合ったことが
ある人が**52%**

【アンケート概要】

令和4年～令和7年7月末の防災講座実施校（愛知県・岐阜県の小・中学校、特別支援学校の児童・生徒）でのアンケート結果（令和7年8月26日時点）